

Blitzen TIMES

UTSUNOMIYA

January.2024

Vol.86



Race Report

- 1.14 全日本自転車競技選手権大会 シクロクロス
- 1.21 東海シクロクロス第6戦 JCX/JCF 愛知牧場

全日本自転車競技選手権大会 シクロクロス 宇都宮
沢田時全日本選手権準V!!
小坂光は力を出し切って納得の走り



● **沢田、まさかのチェイン落ちで2位**
来年も宇都宮開催の全日本で奪還を

シクロクロスの日本一を決める年に一度の全日本選手権が道の駅つつのみや・るまんちっく村で開催された。宇都宮ブリツェンからは小坂光と沢田時が参戦。沢田はブリチストン時代の'16年大会で優勝をしている相性のいいコースだ。また小坂にとっても地元でないの深い場所。「赤いジャージで走る最後の全日本。しかも宇都宮開催。いい走りを見せたい」と言った。小坂はこのシクロクロスシーズン後にヴェロリアン松山へ完全移籍する。

コースは、前日夕方からの雪と気温が下がった影響で、芝生の下が凍っている状態。「表面だけは溶けてきているので、難しいコンディションになった」と小坂。沢田も、「滑りやすい路面で、コース上の至るところに危ないポイントがある。かなり難しいコースになっているので、集中していかないと試走後に語る。

14時30分にスタートの笛が鳴り、勢いよく飛び出したのは竹内遼選手（GHISALLO RACING）。2番手に沢田、そして3番手に小坂。500mのスタートループの間に、それは沢田、小坂のワンツーに変わり、会場は大いに盛り上がる。そのまま進み、このコースの一番の難所であるキャンパーセクションへ。ここは小坂が言っていた芝生の下が凍っている箇所の一つだ。ここで織田聖選手（弱虫ペダルサイクリングチーム）が小坂の前に出る。織田選手は今季負けなしだ。全日本2連覇が掛かっており、その勢いは1周目から感じられた。

そして2周目、先頭のバックは3名で沢田、織田選手、竹内選手。少し間を開けたセカンドバックの3名には小坂も。この並びで難所のキャンパーへ。沢田は先頭で拒ぎ終え、すぐ後ろに織田選手の姿。そして再び自転車にまたかろうとしたその時、織田選手が一気に先行した。一瞬の出来事だった。なんと、沢田のチェインが落ちたのだ。フロントにチェインを掛け直すのに手間取る沢田。小坂の集団にも抜かれ、ようやく走り始めたときは7、8番手ほど。20秒以上のロスをし、もはや終わりかと思われた。

しかし次の周、2番手を行く竹内選手のすぐ後ろに、沢田の姿が！ 切れ目なく続くファンの声援に後押しされ、驚異的な追い上げで沢田は表彰台争いにカンバックしてきた。そのまま竹内選手を、ハスシ2位に浮上。やはり、地元の声援は選手に力を与える。沢田と竹内選手は、しばらく一進一退を繰り返したが、7周目には沢田が完全に竹内選手を引き離し単独2位に。小坂はリズムよく踏んで5位をキープして進む。

そして最終ラップ。先頭は織田選手、2位沢田、3位竹内選手、4位竹之内選手、5位小坂の順で織田選手と沢田の差は1分以上開いていた。織田選手は2周目の沢田のトラブル以降、落ち着いてレースを進め、トラブル回避だけに集中しているようだ。結局、全日本2連覇でフィニッシュ。

1分40秒遅れた沢田は2位。ギャラリに左手を上げて挨拶をしながら、下を向き、静かにフィニッシュラインを通過した。小坂は5位。宇都宮ブリツェンとしての全日本ラストランは、観客にタッチをしながら終えた。

今季無敗の織田選手はやはり強く、沢田もそれは認めるところだが、勝負に勝ちを諦めることは絶対ない。来年の全日本選手権も宇都宮で開催されることが発表され、強くりベンジを誓う。

【小坂光のレース後のコメント】

たくさん応援の中で、自分の持っている力を出し切ったので、まあ、いいレースをすることはできたかなとは思っています。(宇都宮ブリツェンのシクロクロスチームを沢田選手に引き継ぐ形になり、メッセージと聞かれ)僕としては引き継いでくれる人が来てくれたことが嬉しい。引き継いでくれるのが時だというのも嬉しい。トップの勝てる選手がチームにいるということは大事だと思う。僕も競技は続けるので、ライバルでいられるように頑張りたい。これから心の中でブリツェン...というか、時を応援したい。



全日本自転車競技選手権大会 シクロクロス		リザルト
1位	織田 聖 (弱虫ペダルサイクリングチーム)	0h 58' 27"
2位	沢田 時 (宇都宮ブリツェン)	+1' 40"
3位	竹内 遼 (GHISALLO RACING)	+2' 06"
5位	小坂 光 (宇都宮ブリツェン)	+3' 26"



2人が揃うラストレースで 沢田時が今季CX初優勝!!

東海シクロクロス第6戦 愛知牧場



惜しくも4秒で表彰台を逃した小坂を
沢田が出迎え、固い握手が交わされた

1週間前の全日本選手権の興奮と疲れをそのままに、名古屋近郊の愛知牧場にて、東海シクロクロスが開催された。宇都宮ブリツェンからは小坂光と沢田時が出場。宇都宮ブリツェンのチームメイトとしては最後の2人揃った出場となった。

前日から続いた雨はスタート直前まで降っており、「この会場は雨は初めて。かなり厳しいコンディションとなりそう」と沢田。光さんと話したが「ヨーロッパっぽいシャシャバとした泥で難しい」と言うが、2月4日のシクロクロス世界選手権（チェコ）の日本代表に選出された沢田にとっては好都合。「向こうでも泥を経験すると思うので、練習にもなる。しっかり追い込んで、テクニカル面でもフィジカル面でも、いい刺激を入れていきたい」と前向きだ。泥を得意とする小坂も「久しぶりの泥で、試走したらとてもいいコースだったし、こういうレースで優勝できたら嬉しいので頑張りたい。強い選手はたくさんいるが、しっかり走って表彰台には乗りたい」と、明るい表情でレース前の意気込みを語った。

小坂にとって、宇都宮ブリツェンのジャージで走るレースは、この愛知牧場と2月11日の関西シクロクロス二色の浜の2戦で終わる。また、シクロクロスが2名体制になって2人で表彰台に乗ったのは、昨年2月のシクロクロス東京のみ。2人の雄が揃う最後のレースとなれば、何としても2人で表彰台に上がりたい。

定刻通りスタートが切られると、勢いよく飛び出したのは沢田だ。右コーナーのホールショットは沢田が取ったものの、それをヒッターとマークするのが副島選手。2週間前の関西シクロクロスでは、メカトラで大幅に遅れながらも2位を行く沢田を最終周で追い抜き、沢田を3位にした人物。沢田としても注意が必要だ。

そんな副島選手を背後に感じつつも、沢田はリズムよく周回を重ねていった。2位副島選手との差を20秒、35秒、40秒と広げていき、残り3周に

は1分10秒に。日差しが差し込み始めるほど雨はすっかり上がっており、秒差的には余裕が出ていたが、マッドコンディションだけにトランプの可能性は高く、最後まで気が抜けない。特に今季、ミスやトラブルも多い沢田にとってはなおさらだ。一方小坂は最初から4位で単独走行をしていたが、3位鈴木来人選手（OnebyESU-HCV）との差をじわりじわりと縮めていた。最終リップには、鈴木選手の背中を捕らえる位置に。

結局、沢田は後続を引き離し続け、2位と1分41秒差で優勝。2位続きで何度も涙を流した沢田にとって、2023-2024シクロクロスシーズンとして今季初優勝となった。

小坂は鈴木選手と最後まで3位争いをし、沢田も応援に加わり大声を上げたが、わずか4秒差で表彰台を逃す結果に、無我夢中で小坂に声援を送った沢田は「光さんとはこれからもレースをするとは言え、宇都宮ブリツェンのチームメイトとして走るのは今日が最後だった。スタート前から『いい日でしょう』と話していたので、応援に熱が入った」と振り返って笑った。

フィニッシュ後、小坂と沢田はドロドロの手で固い握手を交わし、宇都宮ブリツェンシクロクロスチームのバトンが沢田に託された。

【沢田 時のレース後のコメント】

泥の厳しいコンディションだったが、晴れて路面が乾いてきたらリズムに乗った者が勝つと思う、ホールショットを取り、自分のペースでガンガンいった。1周目から2位以降を離すことができたが、2周目、3周目とタイム差が開いているのをスタッフの方から教えてもらっていたので、今日は優勝できるかと思い、あとはミスのないよう集中して走った。今季は2位が多く、ミスも出た。それでも多くの方に支えられていたので、フィニッシュの瞬間は「これはみんなてつかんだ勝利」と感じた。とても気分が良かった。



東海シクロクロス第6戦 愛知牧場 リザルト

1位	沢田時 (宇都宮ブリツェン)	1h 07' 00"
2位	副島達海 (大阪産業大学)	+1' 41"
3位	鈴木来人 (OnebyESU-HCV)	+1' 52"
4位	小坂光 (宇都宮ブリツェン)	+1' 56"

JBCF 2024 真岡芳賀ロードレース、宇都宮清原クリテリウム開催

真岡芳賀ロードレース
真岡井頭公園周辺特設コース
2024 JBCF サイクルロードレースシリーズ
Jプロツアー第3戦

03
23 sat

宇都宮清原クリテリウム
清原工業団地特設コース
2024 JBCF サイクルロードレースシリーズ
Jプロツアー第4戦

日本のトップレーサー集結



©2023 宇都宮ブリッツェン
JBCF2024 真岡芳賀ロードレース、宇都宮清原クリテリウムの最新情報は大会ホームページに掲載中
<https://www.bicycle-kingdom.jp/>



JBCF
2024 真岡芳賀ロードレース、宇都宮清原クリテリウム開催決定

今年も宇都宮ブリッツェンのホームレースとなる真岡芳賀ロードレース、宇都宮清原クリテリウムの開催が決定。JBCFトップカテゴリーとなるJプロツアーをはじめ、Jエリートツアー、Jフェミニンツアーなど国内プロチームからエリートアマチュアレーサーが栃木県内に集結し、白熱したレースを繰り広げます。新体制の宇都宮ブリッツェンが狙うのはもちろん表彰台。白熱するレースをぜひ会場でご観戦ください。

◆ **JBCF 2024**
真岡芳賀ロードレース
日時：3月23日(土)
会場：井頭公園（栃木県真岡市下籠谷99）周辺コース
主催：真岡芳賀ロードレース実行委員会

◆ **JBCF 2024**
宇都宮清原クリテリウム
日時：3月24日(日)
会場：清原中央公園（栃木県宇都宮市清原工業団地14）周辺コース
主催：宇都宮清原クリテリウム実行委員会

私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。

株式会社 ティーツーテクニカル

この街を走る幸せを、ともに
Honda Cars 栃木中央

Thank you for your support

Blitzen 3